

令和2年度中学校武道授業（合気道）指導法研究事業



令和2年度中学校武道授業（合気道）指導法研究事業〔主催＝（公財）日本武道館・（公財）合気会・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕は令和3年2月13～14日の2日間、日本武道館大会議室（東京都千代田区）において実施された。本研究事業は、中学校武道必修化の充実に向け、指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の上がる合気道授業等の研究をするものである。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策として、日本武道館が作成したガイドラインに基づき、来館時の検温、換気や消毒の徹底、アクリル板を設置し研究者同士の距離を保つなど、十分に配慮しながら協議が行われた。

■1日目（2月13日）

開講式では、はじめに栗林孝典合気会渉外部長が主催者挨拶を行い、「今年度は、世界中が予想しなかった、新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態に陥った。合気会では、昨年4月には道場を閉鎖して、活動を中止。その間、対策を検討して、6月からは少しずつ活動を再開してきた。このような中でも、武道推進モデル校の9校を含め、全国62校の中学校で合気道を採用いただ

ている。より多くの子どもたちに合気道に触れてもらうためにも、授業や部活動で合気道が広まるように、努力をしていかなければならない。今回は、日本武道協議会設立45周年記念事業の『少年少女武道指導書』の完成に向けた内容検討や、指導法の活発な意見交換を行い、今後に活かしていきたい」と述べた。

続いて、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が挨拶に立ち、「平成24年度から始まった中学校武道必修化は、今年度で9年目を迎えた。いずれは、日本国民全員が何らかの武道の経験者になる。コロナ禍でさまざまな事業がオンラインなど非接触での対応を取られているが、どんな形であれ、合気道の魅力を伝えていくことが大事である。受身にはじまり、相手の正中線を攻めて、正中線を崩す。相手の手首に触れて、相手の皮膚感覚をもって倒す、崩す。そしてそれを相手も感じる。そこに合気道の楽しさがある。この2日間、中学生に合気道の魅力を伝えられる授業展開のために、情報交換や協議検討をお願いしたい。私たち自身が平常心でこの難局を乗り越え、中学校武道必修化をより充実させていきたい」と述べた。

開講式終了後、『少年少女武道指導書』について、原稿の確認を行った。指導書は、「安全で楽しく、

充実した武道指導」を目指し、①町道場やスポーツ少年団、②小学校高学年・中学校での授業、③中学校の部活動における指導現場で、指導者や教員、外部指導者を対象とした内容である。文章の表現方法やイラストの追加等について、各研究者より指摘があり、指導書を通して合気道の魅力を伝えられるよう、検討協議が行われた。

その後、新型コロナウイルス感染症拡大での指導方法について、協議が行われた。立木幸敏^{たつきゆきとし}研究者は「自粛期間開けの稽古では、急に激しい運動を行うと、怪我のリスクが高くなるため、段階的な指導が重要である。また、普段通りの稽古ができないと、関節の可動域が狭くなる。合気道は、特に肩回り、体幹、股関節のストレッチを重点的に行うことが、怪我の防止につながる」と述べた。

■2日目（2月14日）

合気道の授業における今後の課題や実態について、実際に授業において指導をしている研究者から、以下のことが挙げられた。

▽平野真央研究者（大妻中学高等学校教諭）

毎年、中学1年生を対象に6～8時間、合気道の授業を行っている。生徒は学年が上がると、合気道の授業は覚えていても、肝心の授業の内容は忘れていく様子。2・3年生でも継続して実施したいが、他の単元との兼ね合いや、他教員が発展的な指導ができないことから、実現できていない。より多くの教員が合気道に触れる機会を増やすことが大事。そのためにも、教員養成大学で合気道を必修科目とするなど、環境づくりをお願いし

たい。

▽佐藤貴^{たかし}研究者（東京都立王子総合高等学校主任教諭）

都立学校の場合は、異動によって継続して教えることが難しいという課題がある。授業内容について、これまでは2人一組で技を行っていたが、今年度は4人一組となり、その内の1人が、違う技を順に3回行う、かかり稽古のような形をとった。すると、以前に比べて生徒の集中力が高まり、技の習熟度が急激に伸びた感触がある。自分の技が他の生徒に見られ、自分も他の生徒の技を見ることが、いい方向に働いたと思う。

両研究者の意見を踏まえ、学校への普及をどのように行うべきか意見が交わされた。

閉講式では、はじめに立木研究者が講評を述べた。「中学校武道必修化が始まり、早いもので9年が経過した。少しずつ形となってきたが、同時に課題もある。今後もより良い合気道授業のために、指導法研究事業を継続的に積み重ねていきたい」

次に、金澤威合気会総務部長が主催者挨拶に立ち、「指導書について、改めて検証できた。子どもたちにより良い指導が行われるための指導書ができるよう、しっかりまとめ、今後の新たな方向性を作り上げていきたい」と述べた。

最後に、中島昭博日本武道館振興課長が挨拶し、「内容の充実した2日間、ありがとうございます。指導書は対象が幅広く、欲張りな内容となっているが、完成まで、引き続きよろしくお願いたします」と述べ、全日程が終了した。

